



48号 令和6年7月25日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより

呉市立阿賀小学校
安宗 誠



強みを生かしながら生き抜く！

酷暑の折、毎日花壇の水やりは欠かせません。しかし、いわゆる雑草たち。水やりのない炎天下でも青々としています。なぜ、そんなに平気でいられるのでしょうか・・・？

「エノコログサ」。俗に「ねこじゃらし」とも言われる雑草(?)。植物の葉には気孔という空気の入出力口がある。気孔を開けば開くほど水分も逃げていく。しかし、エノコログサは二酸化炭素を濃縮して取り込むことができるため、気孔を開く回数が少なく済む。これが、乾燥に強い秘密。

「スベリヒユ」はもっとすごい(?)。スベリヒユは、二酸化炭素を濃縮して取り込むことができる上に、気孔を開くのは夜だけ。乾燥に対する強さはエノコログサをさらに上回る。

とはいえ、夜の間しか気孔が開かないということは、夜の間しか二酸化炭素を取り込めないということ。それを光合成に使えるのは日がさす昼間だけ。しかし、その光合成で作った酸素も、昼間は気孔を閉じているので排出できない。ということは、確かに乾燥には強いが、循環効率が非常に悪いシステムということになる。

(稲垣栄洋『面白すぎて時間を忘れる雑草のふしぎ』王様文庫より)

どうやら、どんなものにも強みと弱みがあるということですね。

となれば、自分自身に置き換えてみたとき、**弱みのダメージを極力なくし、強みを生かしながら生きていくことがよりよい生き方だということになる**のでしょうか。

エノコログサ



スベリヒユ

